

タスク・シフティング、タスク・シェアリング

人口減社会
で医療・介護を担う人手不足時代に備える

高い生産性と付加価値を生み出すための柔軟なタスク・シフティング、タスク・シェアリングへ

- 医療者が新しい役割を担い、高いモチベーションで働くことはより良い医療やより良い社会の価値の創造につながる
- タスク・シフティングは、可能なものから取り組み、基礎教育と現場での教育を順次検討
- 既存職種では十分なタスク・シフティングが進まなかったことから、フィジシャン・アシスタントのような新しい職種も検討
- 患者へのケアやコミュニケーションも含めてタスク・シフティングが十分可能かどうか重要
- 医療・介護のさまざまな機能を統合したサービスへの転換が重要で、その推進のためには医療・介護ともにアカウントビリティーが求められる

高い生産性と働き手の高いモチベーションの両立

既存職にある新たな役割とフィジシャン・アシスタントのようなサポート体制

患者・要介護利用者・住民へのアカウントビリティーが必要

単能工 ⇒ 多能工+ICTによるACO

- 「単能工」から「多能工」へ（ICT活用による多能工同士による支え合う連携・チームビルディング）